

近世名家書畫談二編

四







近世名家書畫談二編卷之四目次

- 戸田茂睡翁異傳
- 尻了然の傳
- 播州加茂山の三大字

附録

- 文字の起原
- 画圖の濫觴
- 畫法諸體古より備る事
- 畫の徳世の治乱小預る事
- 諸先生真跡落款式附



容疎舎  
藏書

名家書畫談二編 卷之四目次



近世名家書畫談二編卷之四

雲煙子 安西於菟編次

戸田茂睡翁異傳

戸田茂睡初名八兵衛後渡邊茂右衛門恭光と云梨本菴  
 まゝ寒露軒と号を寛永六年五月十九日駿府御城三丸  
 あけて生る渡邊監物忠が六男なり父の忠は戸田と五右衛門の忠  
 勝が次男渡邊山城守が智養子と成り後駿河亞相公の老  
 小命せしむる六千石城賜り後亞相公沙事して下野那須郡  
 上庄黒羽小閑居を此時翁八四才なり後沙免して江戸小  
 住をその次兄渡邊久左衛門善石七千より合力城受る伯父



戸田後右衛門が許小養をる此時伯父の厄介小て本多家  
忠小仕小三百石賦賜書付今信州小あり即本郷森川  
宿邸中小住小門小大樹の梨あり一賦をて梨本菴と  
号せあり戸田ハその儘伯父の氏賦名のり一その後延  
寶の末年小仕賦辞して金龍山の邊小居住すること紫  
の一本小見小ツの額有草菴の記と云我聞大隱隱於市  
朝粵有戸田氏某者ト居於湘左良位數十歩之外  
非山非浦所謂隱市朝者也其菴雖小而又獨立群  
家多絶景矣遠望山櫻則思荆公之吟近見川流感  
夫子之言云云

熊小のま虎あまのま涉弟小あきまを推する言  
小笠原俊長大人が考小紫のてそとハ此公羽が著述を隱名  
賦遺佚とせ一事ハ茂睡が深意ありての事あるべしその  
序文小遺佚して怨ざるハ淺草の隱士ハ氣味ありと彼柳  
下恵が遺佚而不怨阨窮而不憫の行ハ賦志を以其身  
幼小て下野國那須一放棄せしむるを怨むを沙免の上  
浪人と成て困窮小至まを清貧賦樂てうまをとの意  
賦含えて遺佚の字賦切出せありと云此説大小當  
まりと思はる

予友信州の人市川信壽が花せる戸田元周筆記一冊あり



是城見し小翁ハ紀州の人あり中畧當金龍山の麓ふもとに居住身のかくま家といふ名歌より人舉こぎりて隱家うきまがの茂睡もすいと呼び別まち山と云其名國之所ところに有あるともさだめごとくも去る城當山城待乳山と相極る事茂睡翁より始る此翁おん隱遁いんとん乃こぎり愛子あいこふかくま高野山たかのやま登りし時大磯の鳴立澤なりたしづを哀あはまきハマまの人の袖そでをうて鳴立澤なりたしづに残のこまことハ葉といふ歌城石碑せきいし小残のこし其節ふしこの山やまを一首城しやう苗なえ免まあきぬ光陰くわんの昔むかしと成り侍るむすぶこまをうてくる小情こころ有人ひと乃此節右の歌のころ城しろ梓あざみ小ちりぢ見みしらぬ人の眼まなこ小ゆも又歌の徳とくをうべしまこと小結縁むすぶ縁の種こゝろとをあるべしあころ

ぎ城感おんトとけあさかぎりあくなぬの法師入道はうしやうにだう予がゆりたりし人あまばまなる道のころ葉城手向てむかひの香花かうかとをあるしとよのぬ三十一文字よりあむ綴つづり石上小備そとハ拜伏らいふくを懐舊くわいきやうのころ城 戸田勘右衛門元周拜上うでたかえもんげんしゆらいじやうのまさいと我身のまらち山夕越行やまゆふこゑとありぬ人のま市川信壽しんじゆ云元周幼名薩太郎さつたろう後勘右衛門と改実ハ茂睡二男ふたごを共ともおのまてかくせしよりあり信州佐久郡相木村向平しやうへいと云まて遁世とんせ閑雅かんが又和歌城わがよくま詠歌えい茂睡もすいが鳥の跡あと小數首かずしゆ出いたり歌林尾花うたのりが末すえを花はなのころ小々くさまてはらりひ安やすく見ぬ色いろ小嵐あざなをころな花はなのころ名城



真蹟卷軸三十首の中名六初ふらまご今こふ出ま  
竹内惟庸御点あり

山

法師茂隆

待乳山とゆふ心とつらえ  
身らくまじりの山にまゐる

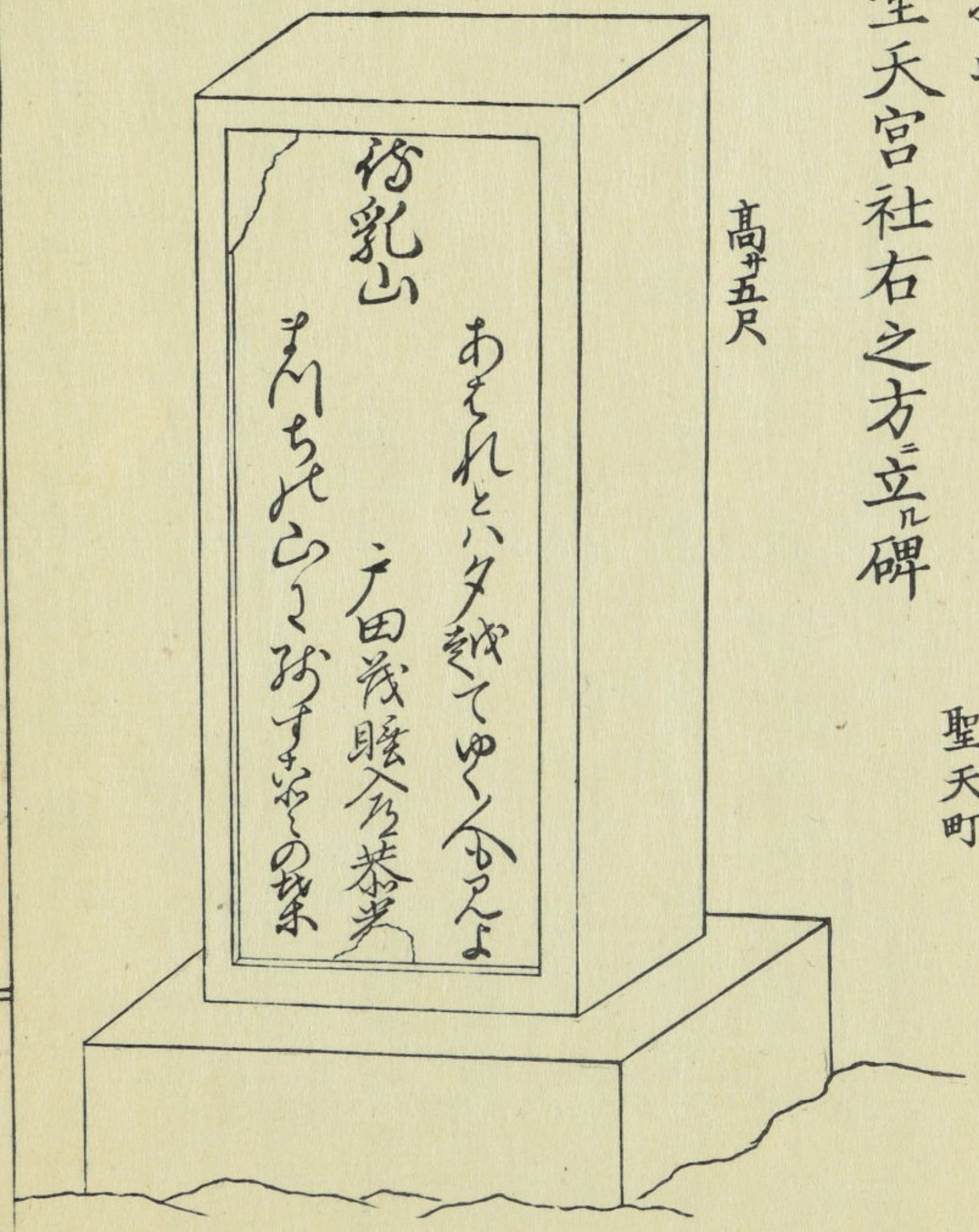
待乳山

金龍山本龍院

天台淺草寺末  
聖天町

聖天宮社右之方立碑

高さ五尺



待乳山 金龍山本龍院 天台淺草寺末 聖天町



かどつり元文二年八月十日没徳岩道祐居士同所禅宗大  
龍寺小葬

按る小元周ハ茂睡翁の二男なる微細ハ未だ考むる人  
翁城紀州の人といハ如何なる故也由縁あることなるべし  
男伊右衛門ハ茂睡故つりて續く之ハ本氏渡邊城名のは  
し他より弥三郎城養子して戸田の名跡城継ぐ之し  
又城まであま時ハ二男ハなきと思はる去りて共信州より  
墓所あり或ハ所縁の家ありて書跡をど出さる城見きバ  
又いふなりや委細ハ信壽追て事跡を贈るより嗣篇ハ  
載まづし又元周夫婦生涯の俸禄江戸より来るより

里老傳ハ云何家よりとい事城志るむ予信州より出る所  
の茂睡翁歌三十首又七首の巻軸城得たり既ハ真跡城雙  
釣して梓行ハ其中彼名歌城載也

ちりの世とあま心元つりてハ身のうきま家の山とあま  
隣女悟言ハあまふんのとて山とありたりとあり萍の跡  
ふいふふんのとて山とあま心元つりてハ身のうきま家の山とあま  
し其の茂睡翁真蹟ハ是まで世上ふある事稀なり故ハ  
輪池屋代翁檜山成徳老など常ハ見まく欲せしを遂ハ  
知らざりて世城去りしを遺憾少くむ古筆了伴大人  
此信壽が持来る雪の巻軸城見て初てかくのごとき真跡



城見たりとて大に感賞せしむるよし是まで埋まらじ  
その信州の山中より出ると八宮小田野山林小大賢のあり  
こととる亦このごとくを思はる

又信壽茂睡翁自筆五色御舍利傳記城持来故ありて  
予之所藏とあるその文小云五色の舎利ハ駿河今川家相傳  
あり今川義元の母儀駿河推野の寺城信仰也今世後  
生の為とて此の舎利城志いの小納忍らるなり其時の住寺  
の後住小興津豊後守といひ一人の甥坊主あるなり興津  
豊後守ハ原上野介が賀老則原六郎が妹賀ありとあるの  
母清芳院ハ原六郎が孫娘ありとある父渡邊監物駿河

府御城代被 仰付妻子共小府中泮城小ありふより右の縁  
城以て志いの住持と念以あり此住持年寄りかごうををとりし  
ま一隐居一跡城駿河安西のまい光寺の 渡邊山城守が 且那寺あり 住持小  
ゆづる月日経て隐居老命あやうき城関き清芳院病惱城  
とつた婦云と下是翁幼稚駿府小あり一事の証あり其出所  
亦このごとく一餘ハ紫の一を崎人傳萍の跡城を考ふ  
男伊右衛門 渡邊氏名覚 十八歳を没 の事跡ハ諸書小ゆづりてこりり載せ  
浅草新寺町白雲山金龍寺小夫婦の墓あり  
憑雲寺ありの本の茂睡 寶永三丙戌年四月十四日  
思ひ跡を事こそを有てうき命のを城々小向て



雲操院捨山ていり 元禄十二己卯年二月廿九日

結ひ何りやう黒髪成契りよ末あつてさるひも

又信州相木の郷大龍寺 此寺茂膳翁以中興 墓又過去帳あり

馮雲院殿寺山茂膳大居士 辞世

多つ祿来て誰とらん草の原露の命の何り一時多ふ

尼了然の傳

了然禅尼名元総大休と号す元来駿州富士の大宮司葛山何某といふもの武田信玄の子成養て子といひ葛山十郎義久と号し其子長次郎と云京都泉涌寺門前小閑居して茶事成好とまゝ古画の鑑定成るその以世人画見の

長次と稱しぬ長次が妻元能書ありその一女即ち了然あり

東福門院小宮仕一やどり木といひ 女院薨御の後仕成

辞して家小何り一が婚姻の事成人媒一なるが常小和歌詩文

成好と頗る禅味ある女あるまば我嫁して子三人生る暇成

賜ハまきと約して松田晚翠と云醫師の妻とありて廿五の以

まて小男女三人の子成生とあるまば夫小志りぐの事成ひ遂お

丘とあり黄蘗諸禅林小入りて参道ひまなく勤め後閑

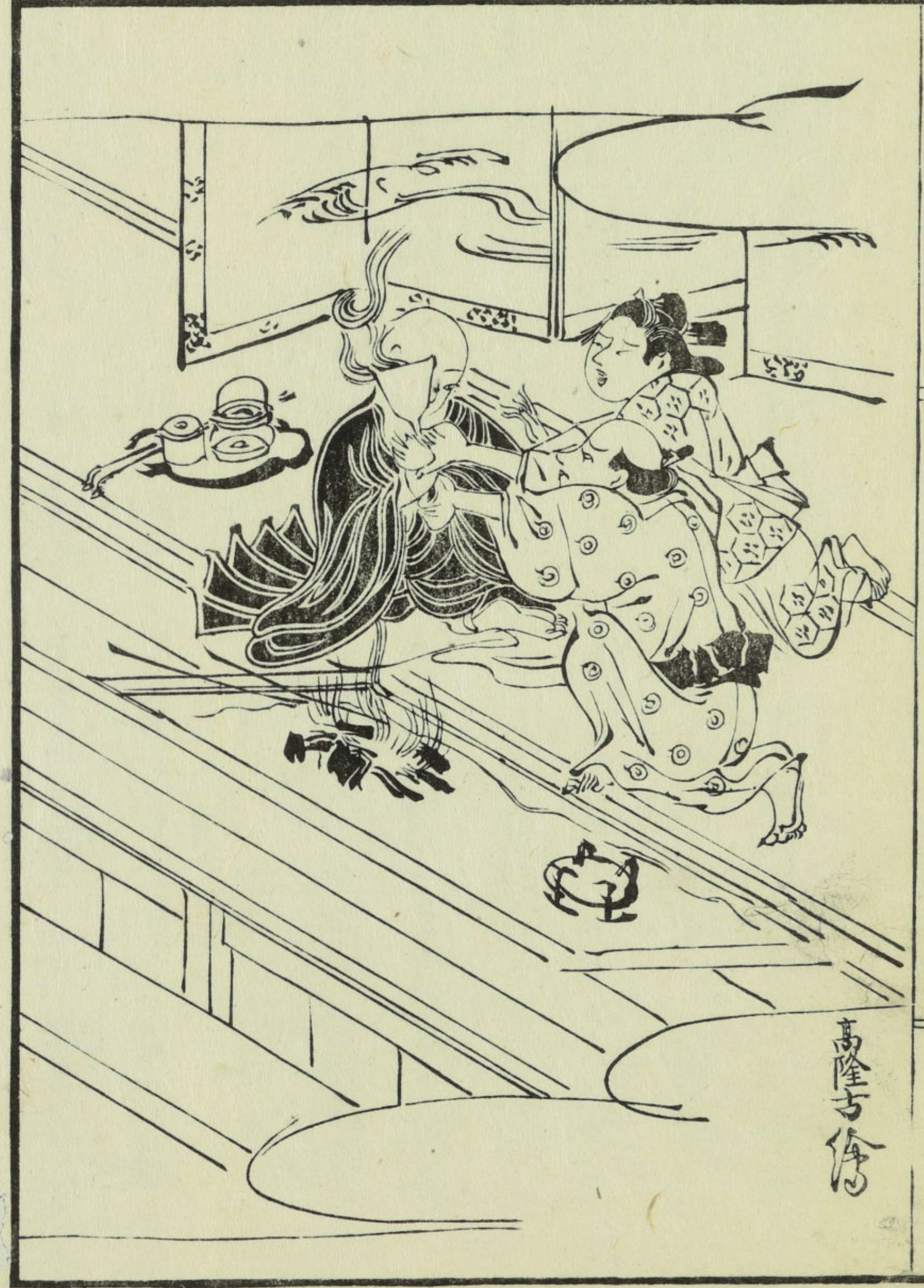
東小下りて弘福寺鉄牛和尚小法問の事成とて其容色

美ありて艶ある故小寺門小入ること成ゆるまじげそまじあり

木菴禅師の弟子白翁和尚の駒込の菴り小在る成きうて



此圖元禄二年  
板本江戸賢女  
さよ衣として其  
ころの貞賢城  
集り画入す本  
小載せしる美  
川師宣の画多  
臨寫して其ころ  
のさよ城のりん



此圖元禄二年  
板本江戸賢女  
さよ衣として其  
ころの貞賢城  
集り画入す本  
小載せしる美  
川師宣の画多  
臨寫して其ころ  
のさよ城のりん

七

高隆古傳



此圖元禄二年  
板本江戸賢女  
さよ衣として其  
ころの貞賢城  
集り画入す本  
小載せしる美  
川師宣の画多  
臨寫して其ころ  
のさよ城のりん



名書目録

卷之四

八



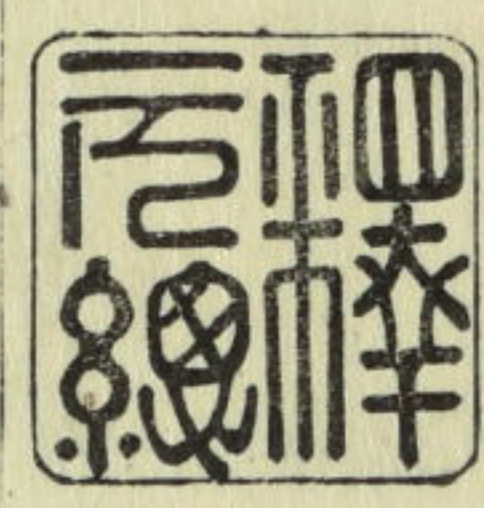
探春月勝秋月之句

心字

來式海無來月少思者  
素、落志、驚、一、曾、此、是  
再、難、遇、在、此、遊、境、對

心字

了於福



尋問して法問のこと紙祿がふ白翁をまゝ美色ありて尤容儀紙そのつること紙おどりて佛法ふ意ある者八かちの美ある紙好まひまゝて容儀紙そのよきいふまゝなり其こちあてハ寺門小阿んこと紙恐るまゝて在任のちよふ屋をんを即座小席紙追拂よふつらまゝり了然力をあゝて立きりある家ふ入て去つぐのこと紙語り傍ふありたる銅器紙火中みいまその内まこ物紙案まゝ體ありつらつら銅器の深赤

名書目録 卷之四



後武州落合村泰雲寺開基を建共屋を造る白翁也

あり多る紙あつらて面頬ふおしつてぜん顔紙ことごとく

焼爛やきらんして相筆紙とて

燎面皮頌

昔遊宮裡焼蘭麝今入禪林燎面皮四序流行亦  
如此不知誰是箇中移。

いづる世もまてたく身やううはし終のサ新と思ひざりせば

とつく吟詠ぎんして後白翁和尚ふまてとく和尚を大ふ感かんじて

在位紙ゆるせり後鎌倉小住所紙をもと知んといでまよ紙

きて遺佚いいつと云人菴室小行て

水草の清きころのこと志なき里紙ふよまきみとて

とありしつら然

皆人のきぬとまのそまをてつてつる世紙をむむ

相ひでまころの巻軸紙遺佚いいつふはふ是ハその以江戸小名

ある歌ぶらう書つたつたそのありやむらさ紀元禄四年板本

書より枝萃えだませしその内ふ了然が歌

君のありさぬ紙跡しを草の跡を形見とえよ

予が所花短冊小

寄露釋教

きあふと見えまばまのたけ露のしき定なき世の諸の教

後武州落合村泰雲寺開基を建共屋を造る白翁也

後武州落合村泰雲寺開基を建共屋を造る白翁也



一本誰作又

南方紀傳二  
建武八年八  
月八日葛山  
備中守經信  
トアリ

初代とて二代と称せしあり正徳元年辛卯九月十八日  
没也辞世の詩とて或人の見きりきり

六十六年秋已久凜と月色向誰明。莫言那裡子  
夫事耳。熟松杉風外聲。

駿州駿東郡葛山城主葛山播磨守元重尾州田樂ヶ窪

葛山備中守勝嘉生害信州伊奈郡法善寺葬法善寺武田信玄建立

葛山播磨守長嘉愛智郡省掛

信玄六男

葛山十郎義久

始信貞母油川某女

天正十年三月十二日生害甲州新善光寺葬

葛山宮内久敬

幼名亀丸

宮内為久

小名鍋太郎  
称長二郎長爾又鉄齋

了然居士——葛山長十郎

女桃仙女史

林家門以稱業仕南紀  
子孫葛山六郎右衛門現在

播州加茂山の三大字

伍石先生の息文峰先生八家学して能書の人あり草聖彙

辨其外ふも此先生の校訂せしき——摸刻未あり惜むる

文政四年の春三十二歳ありて没也翁外小子あり其哀

悼しふるる其少年の日漫ふ筆試き——三大字あり

道勁ありて斌媚然ぬ絶作と云べし往年天保伍石翁

姫路の大夫ふ随逐して其藩ふ往きし日その封内の石の

寶殿いづゆるまう海の何よりハ山と云を石ありその石山城

鏡削して彼三大字城鑿鏤し不朽ふ貽縮ふ亦

幾ありし下世を行年七十有四歳あり古より翰墨者流

葛山三編 卷之四



司馬石控終不成  
 方函誰嫁與洞名  
 山雲五嶽三飛白  
 松石叢叢揮墨眼  
 明 之山人



山水卷之四



山水卷之四

松崖



の説小大字徑丈あるハ作り難きものと云西遊一七播陽小卒ん  
 八其鏗字斌看て能書斌知らる一此小字斌録するその予が  
 翁の徳斌志まは水斌飲て源斌思一の微志あり昔王獻之少  
 年の時小父逸少と共小會稽小あり時小北館の聖壁の新小就  
 くと浄白愛まき斌見て子敬献之帝斌取来り侍者小命ト々  
 是斌泥淖の中小涵浸ギ一免其聖壁小一文四方の一ツの大字斌  
 漫揮漫ま意斌用ひ多る小非非一時の遊戯遊なる小結體結  
 勢位勢驚くべく愛まぐ一日に觀るその市斌市なる小いある  
 義裁義之一日外より物り来り是斌見て嘆称嘆一所親小書斌  
 与与て曰く子敬飛白大有直直とその子斌子ぶぶ讚美讚

せまき一 事圖書會粹小見也

近世名家書畫談二編卷之四畢



附録

文字の起原

書畫談編次の因ふ前修前修の因ふこと二三紙二三紙挙て童蒙の啓發啓發となし猶是ふ就て就て聞見聞見紙弘免弘免なれば此銷閑銷閑の書書亦亦學問の一助一助ありべし先文字の始始紙いをも淮南子淮南子本經本經亦昔蒼頡作書昔蒼頡作書而天雨粟鬼夜哭而天雨粟鬼夜哭とあり劉安劉安呂不韋呂不韋春秋春秋君守君守の門客門客杯杯の著述著述信紙取信紙取ふ足足ぶぶざるざるととるる秦漢乃古書古書ハ一氣一氣ふ抹抹擬擬ままぶぶききみみるる非非むむ繋繋辞辞傳傳ハ上古結繩而治而治後世聖人易之以書契後世聖人易之以書契と云此文の上上上古穴居云とあるふふつつぎぎ鴻荒草昧鴻荒草昧の時時より漸漸ととふふ文物文物の開開る

自然の理自然の理ふて文字紙何人の作ると云ハ臆安臆安小近小近蒼頡紙蒼頡紙黃帝の史官杯史官杯と云る揣摩揣摩の説説ふて信信ぶぶるるふふ足足ぶぶるる羅泌羅泌の路史路史小倉帝史皇倉帝史皇と云るハ又古の天子天子あるべし然然るる小周禮周禮の春官外史外史小三皇五帝三皇五帝の書紙書紙ハ孔安國尚書尚書の序左傳昭公十二年昭公十二年小據て伏犧神農黃帝伏犧神農黃帝の書紙三墳三墳と云と云少昊顓頊少昊顓頊高辛唐虞唐虞の書紙五典五典と云とあるハ天地開闢天地開闢の盤古盤古氏を過過きハ業已文字業已文字も人有て制作制作キキあり蒼頡蒼頡の初初て造造るるハ非ざる事明事明かりかり譬譬ハ漢の高祖漢の高祖天下天下一統一統の後後小秦の苛法秦の苛法紙蠲蠲き法法三章三章と定めら定めらるる夫夫ふて天下天下の女女紙禁禁トト難難く蕭何蕭何も九章九章の律紙定定るる如如く蒼頡蒼頡小至至て



文字の数の蓄く成りあるべし  
 書史會要云炎帝の穗書黃帝の雲書太昊の龍書少昊の鳳書顓頊の科斗書周の文王の史佚虎書武王の時禽書魯書始るなど等の説ハもとより荒唐無稽の言ハあると云書ハ画より生じ、そのと云城知る小足る六書の説ハ周禮の大司徒小出でて其一の象形ハ○●○の象をづく事明白なり象形のとて天下の事物記載難々まは會意轉注などの事出来り益々文字の數ハ増益せし事いづひあり結繩の後ハ幾程なく蒼頡ありて出て文字斌制作しつりと思ふハ誤りあり

秦の蒙恬始て筆斌造り後漢の蔡倫始て紙斌製を  
 董彦遠の説ハ丹鉛録ハ鄒宋の時ハ臨淄少相棺乃前  
 和棺頭斌掘り得る小齊太公六世孫胡公之墓と一惟  
 三字ハ古體ふて餘ハ漢隸あり又周宣王の石鼓ハ其時の  
 史籀の作りたる篆文斌用ひたるハ適當なる共黃帝の  
 時の刀布周初太公九府の圜錢の文ハ秦の李斯制し  
 小篆斌鑄りたるハ如何ふぞや時世前後錯乱顛倒甚  
 一但書ハ事斌記載するところを至簡の穴居結繩乃



世は歴て書ふをつゞく聖人の制作あり後教聖人は  
重祕て完備せしものと思ふる篆書より草書は生  
し草書より隸楷ハ出来りあり真ハ立が如く行を歩  
むが如く料ハ走るが如くありと云ふ因て草書ハ楷行の後  
ふ出来りありとあり立行走ハ書札は学ぶ准  
次は論ぶ言あり

畫圖の濫觴

畫ハ今日より見る時ハ呂覽勿躬小史皇作圖の世用適切乃技  
能ふ非ざる小似たり是ハ深くあり禮義文物ハ  
聖人の天子天下は治め上下は定然らるる大用あり其弟

一小舜の禹小命ぜるる益稷 予欲觀古人之象日月  
星辰山龍華蟲作會とあり是画の禮儀の重典小用ひて  
闕くべくざるの證據あり周禮考工記并論語繪事杯  
え禮典服章のことありるる後世玩弄の山水花鳥を  
是より胚胎をとありるる春秋時世左傳の富艷ありる小  
畫の事さ共沈諸梁葉公子高の畫龍は好む  
說ハ劉向の新序卷五小見也戰國小至てハ高貴の人の此  
技は弄ぶもありるる今の諸侯の圖画は愛せるる能なり  
莊子小載を宋元君左傳史記共小宋小將畫圖衆史皆至  
衆史ハ画工と史職中小在る受揖而立砥筆和墨在外者半有一史



後至云因之舍公使人視之則解衣槃礴羸坐者。君曰可矣是真畫者也。田子方○韓非子客有為齊王畫者鬼神易狗馬難云前引

此一糸少畫手の戦國ふ多き哉知るべし  
本朝畫手の源流ハ延寶中京師の狩野永納が著  
ま画史の一書ハ是バ是ハ讓りて更ふいふ

畫法諸體古より備る事

漢家天下一統の後ハ文物まろく盛ふり技能も多  
くひらなるハ正史外ハ雜記西京雜記東觀漢紀 哉見て知るべ  
し武帝曾て画る伯夷叔齊哉見て東方朔ハ何者  
と問ハき一ハ古の愚夫ありと答一こと太平廣記卷百

七十 小見内漢書外戚傳ハ成帝の班婕妤曾て帝の後  
園小遊ぶま一時車哉共ふせんとある哉辞して古の画家

哉見る小聖賢の君ハ皆名臣側小あり三代の末主を嬖  
妾坐小侍もと云哉見る小周世以來画筆の多きをも察  
ま一ハ元帝の世小匈奴小王嫫哉嫁せりてあて畫局毛

延壽の女姦邪哉あつて條西京雜記 小毛延壽ハ人物小長ト  
凡そ人の好醜老少小巧小陳敞同時の画博士延壽と同じく死罪小あり一人あり 山川樹木

牛馬奔走の衆勢哉善一杜陽望陳敞と同じ死罪 布色着色と同じ花鳥杯云  
小妙哉得りて見るまバ画工の諸體もあて備りて哉知る

又宣帝元帝の父 甘露三年小功臣十人哉麒麟閣蕭何の築る



未央宮

の左閣 小画をせしむるは後漢明帝

光武の子

永平三年小光武の

二十八将云々臺小描寫せしむるは等ハ勸懲の端を

政刑大典小属を遊戯小ハ何ぞ

畫の徳世の治乱小預る事

書ハ心畫ありといふも能書云々展観して人意云々感動する

ハ嗜好の同ドき人小止るは画圖ふてハ人の心云々移す事一目

撃手あり故小賢知の上ふて是云々省覽して戒警といふ又

ハ言意の及ぶ云々云々補ハ速小人云々啓發するの徳あり今二云

此小掲てせしむる唐の太宗ハ睿明学識兼備する人主を

まことと曾て明堂針灸圖云々看る小因て罪人の背小答る云

傳らる

貞觀政要 唐鑑

五代の周の世宗

郭

夜書云々讀て唐の元稹の

均田の易云々觀て嘆稱一天下諸道小頒ち布て租賦云々均

くせしむ 温史及 五代志

唐の世小傳來

周公無逸の易あり

唐書

玄宗の世小宗璟の奉り

歴世の觀戒

貽

其あり玄宗初年

武后の乱云々播ひ心云々治道小専らふせしむる一日小ハ常り

ころ云々云々坐側小置て民生艱難云々忘まざるの箴と云々後天

下井平富庶の世しあり是云々撤して山水の易小云々られ

る云々云々天寶安史の乱云々醞釀一帝位云々失ひ蜀

小奔竄せしむる

困学紀聞の采録

宋の仁宗寶元の初農家耕織

勤苦の易云々延春閣小画云々云々宋史小見ゆるハ真宗の朝小孫奭無逸の易云々奉り云々云々後世小



貽されしを哲宗仁宗より弟三世の元符間神宗の子より小山水  
 の景城せきをせし老仁宗哲宗世城御せしるの動情きんじやうを  
 推知るべし徽宗神宗弟十子ハ風流伎能ふうりゆうぎのう小富とちなる性せうあり  
 て書画小巧しやうこうとなり蔡京童貫等たうくわんとうの姦人えんじんその嗜好しやうご小投しやうたう  
 四方搜索しやうほうさくし法帖名画ほうてつめいが城募購むくむふ大觀たいくわん中ちゆう小王黼しやうふ小  
 勅ちやくして纂述さんしゆせし知らるる宣和博古圖せんわはくこず宣和殿せんわてんありし帝の  
 好事こうじ城觀じやうくわんふ足る其考証こうしやうの疎繆そむハ諸臣しよしんの欺瞞きまん城知るべし  
 當時たうじ汴京べんきやう小画学しやうがくの局きよく城開ひらきハ天下無事てんかむじの日ひハ非  
 ざる小の不急ふきまの道みち小心しんしん城委あづかねらるる遂い小女真じよしん金國きんこくハ  
 攻せらるる其身そのみハ五國城ごこくじやうの幽囚ゆうしゆとなり小至る是ハ書画玩好しやうがくわんこう

小耽たんり天下の大務たいふ城遺失いしつせし小依よてあり元の峻の言小宋の徽宗  
諸事よ善く久獨り君  
頂門の一針とらふを  
 宋の神宗意い城銳えいし王安石しやんし城用もちひらるる天下是てんか為な  
 小茶毒ちやどく城じやうどく論辯ろんべん諫けん争そうするその何なにまじとる帝曾ていそうて聽き  
 用もちひらるる熙寧きねい七年去歲きよしゆん初秋しよしゆより雨あめなり此四月このしがつ小及および  
 旱魃かんちやく城被おほふる因ゆて權けん小新法しんほふ城罷やめらるる天雨てんう城  
 下くだし膏澤かうたく大小敷たいしふく是こゝハ司法參軍しやうはふさんぐん鄭俠ていけつの流民りゆうみんの景城  
 進奏しんそうし天子てんし神感悟しんかんごしあり小因よてあり其以もつ海内かいなん新  
 法の惡政あくせいを征稅せいぜい苛急きやくふくる東北とうほくの流民りゆうみんの景城  
 體顔たいげん色いろハ枯瘁こさいし破やぶるる衣服いふく城じやう身みハ鎖械さがい城



被り尾試負い木を擔ひ老少相携（羸疾塞路その態）  
 の慘怛目元當そらまぬ試其真小寫せ（鄭俠忠真の至）  
 誠よく天地感感動せ（一画の徳小假ると云）一画の後  
 使（ま）呂惠卿（の）女奴（悪）天下の害（成）を（ん）故（上）上疏（と）唐  
 世魏徵（及）姚崇（宋）璟（又）李林甫（盧）杞（の）傳（成）取り画幅と  
 あり（是）小題（と）正直君子（邪）曲小人（事）跡之圖（と）是  
 故其時の邪黨（小）比況（と）奏問（と）是を（亦）神宗の睿（衰）試  
 啓發（せ）とあり

安西帟吉著

附録畢

名家書畫談後序

吾友安西雲烟（以）書畫跋語（為）景  
 畫考（名）家書畫談（同）好者（多）先  
 見之（と）撰（二）編（其）書（就）目（之）以  
 親（也）之（所）録（先）者（之）以（論）碑  
 之（不）傳（偉）子（之）所（免）一（以）生（意）意  
 為（編）述（為）目（皆）之（士）陳（之）几（案）



以為嬉樂或也。醜與。六於。種。舞。  
欽。讀。漢。書。為。二。酒。物。也。予。竊。觀。  
予。煙。之。所以。為。家。者。其。法。甚。重。而。  
不。嗜。在。博。覽。不。勇。於。涉。險。而。獲。財。  
其。性。泥。和。如。此。身。亦。以。淺。淺。不。深。  
固。宜。也。今。若。生。滿。卷。生。一。語。存。之。  
空。取。商。之。洞。見。人。身。縱。將。符。即。之。

竊。後。我。鳥。肉。臭。白。為。是。燕。之。所。推。也。  
其。人。已。有。意。於。故。法。建。名。畫。以。之。雖。  
亦。佳。之。之。弗。愜。將。生。以。讀。佳。化。也。  
曰。身。自。襟。為。之。快。然。也。雲。煙。之。  
稱。蓋。出。於。此。邪。故。生。之。學。之。士。亦。  
嗜。貯。者。為。托。之。烟。身。必。待。遇。其。生。  
物。以。充。其。之。為。丈。人。之。如。雲。為。牙。之。猶。



為王<sup>中</sup>馬<sup>上</sup>之車。且其素不意。不意飾  
為求<sup>中</sup>。負<sup>上</sup>。挽<sup>上</sup>。提<sup>上</sup>。携<sup>上</sup>。不<sup>上</sup>。依<sup>上</sup>。重<sup>上</sup>。深<sup>上</sup>。自  
法<sup>上</sup>。緣<sup>上</sup>。賈<sup>上</sup>。是<sup>上</sup>。不<sup>上</sup>。意<sup>上</sup>。生<sup>上</sup>。以<sup>上</sup>。承<sup>上</sup>。然<sup>上</sup>。以<sup>上</sup>。意<sup>上</sup>。生<sup>上</sup>。  
其<sup>上</sup>。暗<sup>上</sup>。福<sup>上</sup>。符<sup>上</sup>。也。夫<sup>上</sup>。之<sup>上</sup>。廉<sup>上</sup>。價<sup>上</sup>。多<sup>上</sup>。販<sup>上</sup>。積<sup>上</sup>。漸<sup>上</sup>。  
為<sup>上</sup>。大<sup>上</sup>。而<sup>上</sup>。初<sup>上</sup>。射<sup>上</sup>。利<sup>上</sup>。而<sup>上</sup>。財<sup>上</sup>。二<sup>上</sup>。從<sup>上</sup>。強<sup>上</sup>。其<sup>上</sup>。強<sup>上</sup>。  
電<sup>上</sup>。物<sup>上</sup>。死<sup>上</sup>。為<sup>上</sup>。常<sup>上</sup>。市<sup>上</sup>。井<sup>上</sup>。之<sup>上</sup>。去<sup>上</sup>。其<sup>上</sup>。去<sup>上</sup>。之<sup>上</sup>。  
為<sup>上</sup>。骨<sup>上</sup>。其<sup>上</sup>。董<sup>上</sup>。者<sup>上</sup>。而<sup>上</sup>。以<sup>上</sup>。出<sup>上</sup>。中<sup>上</sup>。其<sup>上</sup>。治<sup>上</sup>。符<sup>上</sup>。為<sup>上</sup>。樂<sup>上</sup>。

性利為先。故強以<sup>下</sup>。強<sup>下</sup>。之<sup>下</sup>。自<sup>下</sup>。居<sup>下</sup>。然<sup>下</sup>。古  
者<sup>下</sup>。玩<sup>下</sup>。好<sup>下</sup>。之<sup>下</sup>。類<sup>下</sup>。少<sup>下</sup>。董<sup>下</sup>。乃<sup>下</sup>。生<sup>下</sup>。所<sup>下</sup>。之<sup>下</sup>。子<sup>下</sup>。不  
也<sup>下</sup>。特<sup>下</sup>。聖<sup>下</sup>。士<sup>下</sup>。佐<sup>下</sup>。之<sup>下</sup>。名<sup>下</sup>。董<sup>下</sup>。亦<sup>下</sup>。家<sup>下</sup>。其<sup>下</sup>。流<sup>下</sup>。之<sup>下</sup>。  
星<sup>下</sup>。讀<sup>下</sup>。信<sup>下</sup>。可<sup>下</sup>。之<sup>下</sup>。亦<sup>下</sup>。熟<sup>下</sup>。耳<sup>下</sup>。其<sup>下</sup>。於<sup>下</sup>。  
指<sup>下</sup>。神<sup>下</sup>。或<sup>下</sup>。并<sup>下</sup>。大<sup>下</sup>。儒<sup>下</sup>。高<sup>下</sup>。僅<sup>下</sup>。逸<sup>下</sup>。人<sup>下</sup>。之<sup>下</sup>。化<sup>下</sup>。因<sup>下</sup>。  
非<sup>下</sup>。其<sup>下</sup>。以<sup>下</sup>。強<sup>下</sup>。淺<sup>下</sup>。况<sup>下</sup>。於<sup>下</sup>。其<sup>下</sup>。未<sup>下</sup>。及<sup>下</sup>。名<sup>下</sup>。流<sup>下</sup>。乎<sup>下</sup>。  
董<sup>下</sup>。生<sup>下</sup>。淺<sup>下</sup>。且<sup>下</sup>。味<sup>下</sup>。且<sup>下</sup>。事<sup>下</sup>。涉<sup>下</sup>。多<sup>下</sup>。端<sup>下</sup>。也<sup>下</sup>。今<sup>下</sup>。其<sup>下</sup>。



雲煙以守素識力不強。梓行以此  
冊其編精多。好古風雅之士。所  
此樂。壺酒自適。以滌塵勞。以  
辭。飲之。讀漢書。不古。運。存。也。  
是為後序。

三月甲辰二月流雅大橋知良識



名家  
真跡

款字式

雲煙子暮集



各家書法

宗

惺窩先生

妙

冷泉為景卿惺窩先生之子

藤為景謹寫

藤樹先生

同

後加

中江原拙稿

林家道春先生

夕顏笑字又

熊澤了芥翁

朱舜水先生

身九年

人見友元翁

陳元贊

既白山人 芝山

元贊題

貝原篤信翁

子七翁益

安積澹泊

老圃安覺拜 东村書

貝原先生妻君江崎初女

各家書法

次字

二



室駿臺

室道清

新井白石

中布

雨森東

芳沙

祇園南海

步卿稿

柳原篁洲

勃宰若人

屈南湖

南湖

以上称木門五先生

祇園与一南海之子能梅花

譽壇教人書紀 某在

屈景山南湖弟

仁齋先生

伊上膝維楨題長汎書

東厓先生

仁齋先生四子竹里

伊藤長準中筠園生

宮崎常之進

徂徠先生

不

山縣周南先生

我

平野

金華平玄中子和父

縣考稿

名家書法一編

次字

三



春臺先生

安藤東野

大業 待後園好

萬菴和尚

宇佐美瀧水

昔年京路 年首

大潮和尚

賣茶翁

大源 書 高懸

趙陶齋

戴笠曼公

息心居士陶齋養篆 好

無隱道費

悟心元明

少 悟心

大典禪師

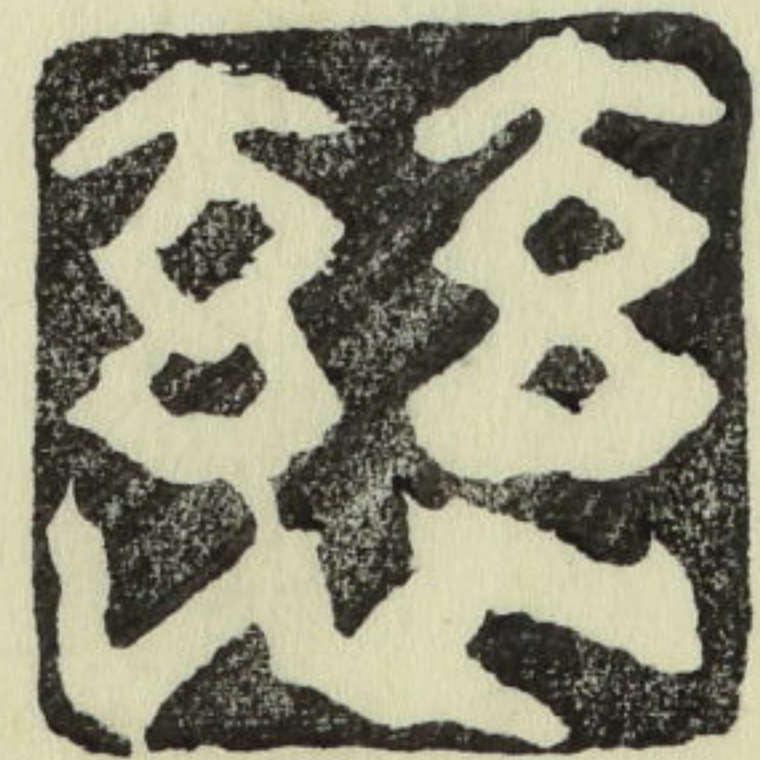
竺 帶 拜

無難和尚

白川白幽子

漢興道人

漢真漫題 風外禪師



雲居希膺

佐々木照元居士

希膺 照元書



卷之三

書

四

龜田窮樂

窮樂  
牛  
方  
葛子琴

細合半齋

念  
雄  
好  
子

春水弟仙嶺

春風弟万四郎  
賴  
惟  
未

賴春水

春風弟万四郎

賴春水

春風弟万四郎  
賴  
惟  
未

尾藤孝肇

尾藤孝肇  
村山退齋

濱田氏

野呂氏

濱田氏  
野呂氏  
杏  
堂  
分  
后  
第  
五  
隆

長町

菜山氏

菜山氏  
菜  
嗣  
燦

長町  
菜山氏  
菜  
嗣  
燦

釧就

釧就  
雲  
乃  
寫

愛石師

高陽廷冲

愛石師  
高陽廷冲  
市  
不  
高  
陽  
山  
人  
戲  
寫

尾藤孝肇

卷之三

五



池大雅

辛卯仲夏寫

蓬平信州人大雅門人

應舉

霞進者

蘇名

薰葭堂

吳齋

大島芙蓉妻  
羅井女

來禽

八山休

名

柳里恭

公美

壘嶂肯露

彭城百川

三熊海棠

傲平山業

甲子夏日

彭真潤寫

山水

謝蕪村

西村氏

楠亭

寬政壬子仲夏寫

應舉

應舉寫

吳月溪

冬夜初之月

長澤氏

月溪

呈春

以

駒井氏

源琦

山口

素狗

素狗



崎陽熊代氏

繡江熊斐寫 荃九如 蘭齋森文祥

井戶平助

越人森蘭齋

森祖仙

安藝岷山

肥州人三川幸之進  
熊櫻花寫真

祖仙 或 山 一 玉 珠 之 奇 相

桐隱公子

津山之臺山

桐 隱 子 壽 山 金子金陵 金陵寫

何帛 光琳門人

五嵐浚明北越名家

太有 何 帛 浚 明 寫

契冲阿闍利

契 冲 阿 闍 利 東 万 品 荷田大人

荷田

吉川惟足翁

管 在 滿 堆 之 學 鳴島道筑

僧涌蓮

鴨祐為

存 之 生 赫 仁 海

加茂縣居大人

釋澄月

釋大愚

今西行似雲

逢 山 燕 延 似 雲 真 洞 鹿

手島信



後集書畫考卷之六

里村法橋

經 色 如 之 處 延 隆 苑

宗祇法師

長頭九貞德

齊藤氏

池西紫藤軒

井原三芳翁

安原貞德子

德 元 言 水 雅 心 西 鶴 白 雲

松江重賴

青木氏

瀧野氏

秋色女

雅 舟 白 梅 園 鷺 水 雲 小 松 色

加賀人庄

五升菴

尾州人僧

鈴木氏

迦 涼 端 五 岳 拾 筆 卷 之 五

沈氏花鳥

南 嶺 沈 銓 南 嶺 沈 銓 寫

寫 於 皓 月

伊華野山水

山 窗 伊 華 野 山 水 松 竹 亭

余崧花鳥

秋 亭 余 山 松 寫

李用雲竹

長 安 李 用 雲 竹

高乾花鳥

浙 西 高 乾 寫

右款字式八真跡より  
摸一七僅小名家数  
十人故筆より別小近  
世名家落款讚撰  
多し是亦開彫近  
き少し雲烟子識

名家書畫考卷之六



安西雲煙著目

近世名家書畫談

前編二冊  
後編四冊

出来發兌

同

三編

嗣出

真蹟清賞錄

二冊

同

雲烟雜錄

二冊

同

雲烟叢語

二冊

同

天保十五年甲辰六月

江戸

横山町三丁目

和泉屋金右衛門

藥研堀埋立地

和泉屋席

吉

發行

書林

大坂心齋橋

秋田屋太右衛門

江戸日本橋通三丁目

須原屋茂兵衛

同

二丁目

山城屋佐兵衛

同

小林新兵衛

中橋廣小路

西宮彌兵衛

芝神明前

岡田屋嘉七

本石町十軒店

英大助

淺草茅町三丁目

須原屋伊八

横山町三丁目

和泉屋金右衛門



